（別紙３）

公表　児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援くらっぴ			
○保護者評価実施期間	2026年　1月　25日	～	2026年　2月　17日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	64	（回答者数）	46
○従業者評価実施期間	2026年　2月　1日	～	2026年　2月　15日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　2月　24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・療育が恒常化されることなく、様々な新しいプログラムが検討実施され組まれていること	・毎月、職員で担当の曜日を決め、日案を立てている。 ・お子さま１人ひとりの「現課題」を職員間で話し合い、向き合いながら、お子さまが楽しんでプログラムに参加できるようにしている。	・お子さまの「課題」に対し、専門職の意見をさらに取り入れ、必要課題を明確化していくようにする。 ・参加するお子さま自身からすすんで参加できるように、流行りやお子さまのブームをキャッチしながら療育内容を検討する。
2	・専門職も多く、１人ひとりの療育のスキルや考えがあり、お子様に合わせた支援を行うことができていること	・お子さま１人ひとり、介入する専門職を随時検討しながら、各専門計画書を定期的に見直し、個別や小集団での療育を積極的に取り入れている。 ・月１回程度、個人研修を行い、各職員のスキルアップを行っている。	・各職員が療育内容を知ることができるように、積極的かつ定期的に外部研修を行う。 ・第３火曜日の午前中に継続して内部研修行い、各職員のスキルの向上と待っているスキルを発揮する。
3	・目でわかる支援を目指し、保護者交流会を実施したり、療育の様子を写真でお送りしたりすることで、ご家庭と一体となって支援できていること	・送迎時やモニタリング時などにはお子様の様子を丁寧に伝えることで喜びを共有しあうようにしている。 ・子育ての不安なども解消できるように、ラインで悩みや不安を聞き対応している。	・年間プログラムを作成しながら、多くの保護者に参加してもらえるように呼びかけるようにする。 ・家庭と連携を密な連携を取りながら、関わり方の統一を図り、児童の育ちを多角的に支えることができるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・部屋が少し狭い	・お子さまの年齢によっては、夕方の時間など部屋が狭く感じてしまうことがある。 ・年齢や発達段階に合わせての場所の確保や空間分けを行うことが難しい。	・隣の公園やビル内の他施設、屋上の利用など、場所を分けながら支援できるようにする。 ・近隣の有料施設も検討しながら、支援できる場所の確保を行う。
2	・保護者様同士の繋がりがあまりできていない	・定期的な保護者交流会やペアレントトレーニングは行っているが、回数が少なく、参加されるご家庭も限定的になってきている。 ・車での送迎も多いため、なかなかゆっくりと話す機会も少ない。	・年間計画の中に多く取り入れることで、回数の増加を図るようにする。 ・お迎えや参観してもらえる機会を設け、保護者様同士がつながる場所の提供を行う。
3	・外部研修の機会が少ない。	・職員の配置等の理由により、なかなか行けていない。 ・会社予算に外部研修費用の概算がないため、なかなか行きにくい現状がある。	・取締役を含め、今後外部研修費用や頻度について検討する必要がある。 ・外部研修に行ける人員確保が安定して必要となる。